

平成 30 年第 1 回大仙市議会定例会

施政方針演説

平成 30 年 2 月 23 日

大仙市長 老 松 博 行

平成 30 年第 1 回大仙市議会定例会にあたり、平成 30 年度の市政運営の基本方針と施策の概要を申し上げ、市民の皆様をはじめ、議員各位のご理解とご協力を賜りたいと存じます。

1 はじめに

この冬は、1 月下旬に平成 26 年 12 月以来となる大雪警報が発令されるなど、豪雪となった平成 24 年度に迫る降雪量となっております。除雪作業中の負傷事故も発生しており、被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

市では、1 月 30 日に雪害警戒対策室、2 月 13 日には豪雪対策本部を設置し、降雪状況に応じた速やかな対応にあたっているところであり、市民の皆様の生活に支障のないよう、除排雪などに万全の対策を講じてまいります。なお、今後の降雪予想などを踏まえ、今次定例会に除排雪予算 2 億 5,000 万円の追加補正を上程しておりますので、よろしくお願い申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、7 月、8 月の大雨、9 月の震度 5 強の地震、9 月、10 月の台風など、自然災害が多く発生し、まさに自然の脅威を実感させられた年でありました。

一方で、本市が躍動した年でもあり、「花火産業構想」に基づく 4 月の新たな花火工場の操業スタートを皮切りに、市全体が盛り上がる取組が数多くあった 1 年でありました。

平成 30 年度は、大仙市が次なるステージへと飛躍するための「挑戦」

の年にしたいと思っております。

喫緊の課題である「災害復旧対策の推進」はもちろんであります、公約の重点とする「地域の商工業振興と企業誘致強化」、「攻めの『だいでん農業』の確立」、「若者がチャレンジできる環境づくり」、「子育て・教育の充実」、「医療・福祉の充実」、「地方創生への挑戦」などを柱に、今必要とされる取組を積極的に進めてまいりたいと考えております。

2 主要課題等について

それでは、はじめに市の主要課題等について申し上げます。

(1) 災害復旧対策について

はじめに、災害復旧対策についてであります。

昨年夏の大雨で被災した市道や農地・農業用施設、市管理河川などについては、これまで、特に大きな被害を受けた協和、南外、西仙北の3地域の支所を中心に復旧事業を進めておりましたが、事業を加速させるため専門部署を設置することとし、2月1日、西仙北庁舎内に「災害復旧事務所」を開所したところであります。

本事務所には、現在、任期付職員を含む10人を配置しており、4月以降は13人体制を予定しております。なお、平成29年度中は、専任職員のほか、本庁と支所の職員12人が兼務し業務にあたっております。

本事務所では、被災した各施設等のうち、国の補助事業として採択

された公共土木施設、農地・農業用施設、林道の災害復旧並びに県補助の治山事業を担当いたします。

準備が出来次第、順次工事発注を進めており、概ね3年以内に全ての復旧事業を終えるよう努めてまいります。

国、県の治水と水害対策については、雄物川の改修では、東北地方整備局内に「雄物川激甚災害対策特別緊急事業推進室」が設置され、集中的に事業が進められております。

また、雄物川水系の県管理河川の改修では、災害復旧とあわせ堤防の嵩上げ等の治水対策事業が進められております。

内水対策については、大曲地域の丸の内町、丸子町、大町の排水ポンプ増設を6月下旬の設置を目指して現在工事を進めているほか、朝日町、黒瀬町、福見町、福田のアンダーパスに、新たに水深表示や冠水時進入防止遮断機を設置することとしております。

また、突発的な大雨による浸水被害への対応として、常設ポンプ設置等のハード面の対策事業の推進とあわせ、被害の軽減を目指す「雨水管理総合計画」を新たに策定することとしております。

国の復旧事業の対象とならない農地等の小規模災害については、復旧支援のための補助金を交付しておりますが、申請見込が1,350件、補助見込総額3億9,828万円に上っており、事業未了等に対応するため30年度に予算の一部を繰り越し、支援を継続してまいります。

農業経営等復旧・再開支援事業等については、1月末現在で、30年度での支払予定を含め332件、補助見込総額7,527万円の申請となって

おり、順次支払いを進め、被災生産者の経営再開を支援してまいります。

引き続き、災害復旧を最優先事業と捉え、集中的に事業を行い、いち早い復旧を果たすべく全力で取り組んでまいります。

(2) 農業政策について

次に、農業政策についてであります。

生産調整を含む米政策の転換や農産物の輸出入の自由化の動きなど、米をめぐる環境は一層厳しさを増し、稲作への依存度が高い本市農業にとっては極めて厳しい状況にあります。基幹である稲作と、畑作、園芸の複合経営や6次産業化等を一層推進しながら、将来とも安定的で持続可能な地域農業の実現を目指してまいります。

稲作については、平成30年産からの新たな米政策に対応し、需要に応じた米生産を推進するため、消費者ニーズを意識した高品質米や地域の特色ある米づくりを引き続き支援するほか、回復基調にある米価を維持し農業所得の向上を図るため、生産調整の実効性確保に向けJAや集荷業者等と連携を強めてまいります。

複合部門については、整備が進む広範な水田を有効に活用し、平成26年度から本市独自の事業により取り組んできた大豆の生産振興をさらに推進してまいります。また、中山間地などの条件不利地においては、出荷数量に応じた助成により「そば」への作付誘導を行うなど、独自施策により複合経営を推進してまいります。

園芸部門については、農業者の初期投資の軽減を図るため、機械、

施設等の導入経費に対し支援するとともに、特に「しいたけ」や「いちご」など周年農業の実践に係る施設等の導入に対しては、国、県の補助事業活用に加えて、市でも助成を行い、冬期農業の推進、周年農業の確立を目指してまいります。

6次産業化については、農業者それぞれの取組内容に合ったサポートを行うほか、取組に必要となる機械、施設の導入について、国、県の補助事業の活用とあわせ、市独自のきめ細かな支援を実施いたします。また、販路拡大に向けた商品のPR等に対する支援の拡充、いぶりがっこ用だいこんや加工用トマトなど原料生産に対する支援も実施し、生産、加工、販売に至る6次産業化の一連の取組を総合的に支援してまいります。

畜産部門については、大規模化を目指す若手畜産農家が共同で設置する堆肥舎整備を支援し、耕畜連携による資源循環型農業の推進を図るとともに、繁殖牛、肉用牛の増頭に向けた環境づくりを進めてまいります。

担い手の確保育成対策については、東部・西部新規就農者研修施設での新規就農者の確保育成とあわせ、営農相談の実施など就農後の不安解消に向けた環境づくりに努めるほか、地域農業を支える多様な担い手の確保に向けた法人化支援など、大きな転換期を迎えている農業に対応できる農業者の育成に努めてまいります。

「農業」と「食」をテーマとした地域活性化構想については、29年度での構想策定に係る基礎調査を経て、30年度は策定に向けた準備を進め

てまいります。

(3) 花火産業構想について

主要課題等の最後は、花火産業構想についてであります。

「(仮称)花火伝統文化継承資料館」の建築工事については、現在の進捗率は約65パーセントとなっており、昨年7月の大雨及び今冬の大雪の影響により若干の遅れがあったものの、5月末の完成に向け順調に工事が進められております。

開館は8月上旬を予定しており、花火資料館機能と生涯学習機能が融合した新たな交流の拠点として、市民をはじめ多くの花火ファンに繰り返し訪れていただける施設となるよう準備を進めてまいります。

なお、今次定例会に本施設の設置条例や関連予算を上程しております。

花火ブランドの戦略的活用については、「メイド・イン・大仙」の花火玉原料開発・普及事業の取組として、株式会社花火創造企業が一般社団法人大仙市観光物産協会の製造するマツ炭を粉砕し、花火玉の原材料とするための施設整備を予定しており、市では国の地方創生推進交付金を活用し、これを支援することとしております。

なお、花火産業構想は、現在の計画期間が平成30年度までであることから、これまでの施策を検証しながら、「第Ⅱ期花火産業構想」の策定に着手し、本市における地方創生の取組をさらに推進してまいります。

3 平成30年度当初予算（案）の概要について

次に、平成30年度当初予算（案）の概要について申し上げます。

私のもとで編成する初めての当初予算であり、市全体を元気にするまちづくりを着実に進めていくことを念頭に、「防災減災対策の推進と都市基盤の整備」、「少子化・人口減少対策」、「大仙らしさ（地域資源）の活用」、「地域のひとづくり」、「だいせんライフの確立と発信」の5つの視点に基づいて、機動的で実効性のある予算編成を行っております。

一般会計については、（仮称）花火伝統文化継承資料館等整備事業のほか、地域枠予算の拡充、道路維持体制の充実・強化など、市民生活に密接に関わる事業や地域活性化事業を着実に進めるための予算編成に努めました。大型建設事業の減などにより、予算総額は、前年度に比較して14億7,980万円、率にして3.2パーセントの減となる447億4,120万円となっております。

また、大雨の災害復旧事業に関する繰越見込額21億円を合わせ、実質約468億円の予算規模となるものであり、災害からのいち早い復旧と市民生活の向上を図る事業をバランス良く実行してまいります。

当初予算における重点施策への予算配分は、「安全安心・都市基盤の整備」に29億2,500万円、「子育て支援と教育の充実」に27億8,200万円、「農業振興と地方創生の推進」に24億4,700万円、「地域振興、発展のあるまちづくり」に7億5,400万円、「定住、雇用、地域医療、若者チャレンジ」に9億6,400万円を計上し、5つの重点施策を合わせ

た予算額は98億7,200万円で、一般会計予算の22.1パーセントを占めております。

その他の会計については、30年度から、土地区画整理事業特別会計の清算事務を一般会計で処理することや下水道事業の4つの特別会計を企業会計へ移行することから、特別会計は12会計で予算総額101億5,705万8千円、企業会計は4会計で予算総額107億4,531万4千円となっております。

なお、予算編成にあたっては、事業費の抑制を図りながらも市民サービスの提供に影響がないよう努めたことや、普通交付税の大幅な減が見込まれたことから、一般財源確保のため財政調整基金から6億円の取り崩しを行っておりますが、29年度の決算見込額を勘案し、29年度中に同額の積み増しを予定しております。

今後は、目標としてきた基金残高である30億円台を早期に回復できるよう、可能な限りの積み増しを行い、財政基盤の維持に努めるとともに、31年度以降も一般財源の減少が見込まれることから、30年度早々から事務事業の点検を行い、持続可能な財政運営に向けた見直しを図ってまいりたいと考えております。

4 平成30年度の主な施策の概要について

次に、平成30年度の主な施策の概要について、総合計画の施策の体系順に申し上げます。

(1) 魅力ある産業のまちを創ります

はじめに、産業振興・雇用などについてであります。

(農林水産業の振興)

農業の振興については、先程主要課題等で申し上げましたように、各種施策に取り組んでまいります。

農業生産基盤の整備については、県営ほ場整備事業が、大曲地域の「内小友東部地区」と協和地域の「川口地区」の新規採択を含め、管内17地区で実施されることとなっております。また、中山間地域で耕作条件の不利な地域については、「小規模集落元気な地域づくり基盤整備事業」などの実施により、耕作条件の改善を進めてまいります。

「多面的機能支払交付金事業」については、市内水田の約8割を対象に142組織で取り組んでおり、農家と地域住民による活動が一層充実するよう支援してまいります。

林業の振興については、「秋田県水と緑の森づくり税事業」を活用し、中仙地域「十六沢城址公園」の整備を進めるほか、クマ等の野生動物との緩衝帯を設けるための整理伐の実施を計画しております。

水産振興については、安定した鮭稚魚の放流数確保に努めるとともに、小学校や駅等で鮭稚魚の飼育展示を行い環境学習に役立てるほか、中心市街地を流れる河川へのウライ設置などにより、観光面でも鮭資源を広く活用してまいります。

（商工業の振興）

商工業の振興については、大仙市商工会と連携し地域の商店街の活性化と持続的発展を目的とする「地域商店街元気づくり事業」を新たに実施いたします。各地域の現状を分析し、その地域の特色を活かした事業の検討を進めるほか、地域の抱える課題の解消を通して、地域商店街を元気にする新たな「仕事づくり」を推進し、地域の商店街活性化に努めてまいります。

企業対策については、企業訪問により要望が多かった人材獲得に対する支援制度について、企業が求人活動や労働環境整備などをより計画的に実施しやすくするため、事業区分の見直しや補助上限額の引上げ等、拡充してまいります。

企業誘致については、木質バイオマス発電事業を行う「秋田グリーン電力株式会社」が協和地域^{だいぼやし}台林に発電所を整備中であり、平成31年2月から仮操業する計画と伺っております。このほか、「ナガイ白衣工業株式会社」や「株式会社秋田平野製作所」、「興栄建設株式会社」など、増設計画を進めている事業所に対し、地域産業の活性化と雇用創出に結び付くよう支援してまいります。

なお、新規誘致や増設を検討している企業に提供できる工業団地の新設に向けて、平成29年度の工場適地調査を基に候補地の選定など基本計画を作成し、企業のニーズに合った工業団地の整備を進めてまいります。

また、市職員を4月から2年間、東京の県企業立地事務所に出向させ、

昨年 10 月から採用している首都圏在住の市企業専門監 2 人とともに、県や地元金融機関等と連携しながら首都圏の企業訪問を行い、有力な誘致案件には積極的なトップセールスにより企業誘致の実現に努めてまいります。

（観光の振興）

観光振興については、秋田県が 9 月から 11 月まで J R 東日本の「重点販売地域」に指定されることから、県と連携して首都圏主要駅観光キャラバンを実施するほか、有楽町で開催する「大仙市ふるさとフェア」に加え、新たに、全国各地の特産品を扱う商業施設である浅草の「まるごとにつぼん」において、「花火」を軸に本市の魅力ある観光資源を織り交ぜた観光 P R と物販のイベントを実施し、交流人口の拡大に努めてまいります。

インバウンド観光については、外国人旅行者の増を目指し、仙北市及び美郷町と連携して、台湾、欧州などで人気の高いサイクリングコースでの誘客を今年秋から開始するほか、秋田市、男鹿市及び仙北市と連携し、広域周遊の実現を目指す二次交通アクセス確保のためタクシーによる試験運行を行うなど、受入環境を整備してまいります。

また、5 月に開催予定の「大曲の花火 春の章」は、「世界の花火 日本の花火」がテーマであり、国際色ある大会として開催を支援してまいります。

全国花火競技大会については、国土交通省の協力をいただき、打上

会場及び観覧会場のさらなる整備を図り、より一層安全で安心な大会運営に努めてまいります。

（雇用の安定・就労の促進）

雇用の安定と就労の促進については、求職中の市民の資格取得を支援する「資格取得応援事業」の対象資格に、新たに「保育士と幼稚園教諭」を加え、保育士不足の解消とともに、地域産業が求める専門的資格を有する人材の確保に努めてまいります。

また、若者の地元定着を目的に、インターンシップを行う学生やAターン就職希望者に対する交通費と宿泊費の助成を行うほか、県内の大学と連携し市内企業にインターンシップの受入れを促してまいります。

就職に関する支援制度については、高校の卒業式や成人式、首都圏で開催されるAターン就職相談会等で積極的にPRを行い、本市での就職・定住に向けた情報提供を行ってまいります。

また、多くの若者が地元で活躍できる雇用環境を実現するため、ハローワーク、県、近隣自治体、大曲仙北雇用開発協会と連携を図り、「職場定着セミナー」や「高校生の職場研修事業」、「仙北地域新規高卒者企業説明会」を実施してまいります。

（2）みんなの元気を応援します

次に、出会い・結婚・子育て、健康・福祉などについてであります。

(出会い・結婚・子育ての充実)

出会いと結婚の支援については、市が積極的に結婚を希望される方の登録窓口を設け、本人の希望に沿ったサポートを継続的に行うほか、「だいせん婚シェルジュ」との協働により、時代のニーズに合った独身男女の出会いイベントを実施するなど、支援事業を推進してまいります。

母子保健については、妊産婦健康相談、乳幼児健康診査、乳幼児健康相談などの事業に加えて、妊娠、出産、子育てに対する包括的な支援を行う「子育て世代包括支援センター」を平成 31 年度に設置するため、準備を進めてまいります。

保育士の確保対策については、「保育士就労奨励金」、「保育士就業支援事業」、「臨時保育士処遇改善推進事業」を実施するほか、新たに、市内の保育施設に就業した保育士の奨学金返還に対する助成を行うこととしており、法人等と連携し保育士の確保に努めてまいります。

県と協働で実施している保育料助成「すこやか子育て支援制度」については、県では、30 年度から対象世帯の追加や所得制限の緩和など制度を拡充することとしておりますが、市では、県の制度をさらに一部拡充し保育料の助成を行うこととしております。

放課後児童クラブについては、利用希望者が増加しており、西仙北地域に新たにクラブを増設するなど待機児童の解消に努めるほか、研修会を実施し支援員の資質向上を図ってまいります。

(保健・医療の充実)

がん対策については、これまで子宮頸がん、乳がん、胃がん検診で実施していた「コール・リコール事業」に、新たに肺がん検診を追加し、受診率の向上とがんの早期発見、早期治療に結びつくよう努めてまいります。また、これまでの医療用ウィッグ購入費助成に加えて、新たに乳房補正具購入費助成を行い、がん患者の経済的負担の軽減と社会参画の支援に努めてまいります。

自殺対策については、過労や生活困窮、育児、介護疲れなど様々な社会的要因に対する包括的な対策が必要であることから、これらの対策を盛り込んだ「自殺対策計画」を策定し、関係機関と連携を図りながら、誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指してまいります。

(社会福祉の充実)

子ども・若者育成支援については、「NPO法人大仙親と子の総合支援センター」に「大仙市子ども・若者総合相談センター『びおら』」の業務を、「NPO法人^{ひきや}光希屋(家)」に「同センター『ふらっと』」の業務を引き続き委託し、引きこもりや不登校の児童生徒・若者に対する相談や居場所の提案、就労支援等を行ってまいります。「びおら」と「ふらっと」が連携しながら、両施設それぞれの特徴を活かした取組ができるよう支援の充実を図ってまいります。

社会福祉法人水交会が事業主体となって進めている「かわ舟の里角間川改築事業」については、事業計画の見直しにより、本体工事等を平成

30 年度に実施する予定と伺っており、引き続き事業が円滑に進捗するよう財政支援をしてまいります。

（高齢者福祉の充実）

在宅医療・介護連携については、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最期まで続けることができるよう、関係団体が連携し在宅医療と介護を一体的に提供することを支援する「在宅医療・介護連携支援センター」を、新たに平成 30 年度、健康福社会館内に開設することとしております。

認知症対策については、早期の段階で適切な診断や対応を図ることが、進行抑制に大きな効果があると言われております。初期の認知症高齢者やその家族に対して戸別訪問や適切な支援を行えるよう、医療や介護等の複数の専門職により構成された「認知症初期集中支援チーム」を、新たに 30 年度、市立大曲病院内に設置することとしております。

（社会保障の充実）

国民健康保険事業については、4 月から、国保財政運営の県単位化がスタートする重要な医療保険制度改革が実施されます。市町村は、引き続き国保税の賦課徴収、窓口業務を担うこととなりますが、県と連携を図りながら、被保険者が安心して医療を受けられるよう円滑な国保運営に取り組んでまいります。

なお、県単位化後は、国保税を主財源とした国保事業費納付金を県に

納めることとなり、税負担への影響が心配されましたが、平成 30 年度の納付金確定額が現行税率で納付可能であると見込まれることから、国保税率を据え置くこととしております。

(スポーツの推進)

スポーツの振興については、第 2 回全国 500 歳野球大会を 7 月 14 日から 16 日まで 3 日間の日程で、本県を含む全国から 32 チームを迎え開催することとしております。この大会を本市の知名度を上げる良い機会と捉え、オリジナルの特産弁当や観光ツアー、特産品販売ブースの設置など、関係機関と連携した「おもてなし」を充実させ、交流人口の拡大と市の PR に努めてまいります。なお、大会の財源として、第 1 回に引き続き、企業版ふるさと納税制度を活用することとしております。

スポーツ合宿については、去年は首都圏を中心に 23 団体、延べ 5,253 人が市内温泉施設に滞在しており、練習のほか、地域との交流や試合、実技指導、学習指導などを通じて、地域の活性化に大きな役割を果たしていることから、さらに招致に努めてまいります。

大曲武道館については、老朽化と耐震強度不足のため平成 30 年度に解体し、31 年度に改築工事を実施することとしております。

(3) 住みよいまちを築きます

次に、安全・安心、都市整備などについてであります。

(自然環境の保全)

地球温暖化防止対策については、市の事務事業に伴い発生する二酸化炭素の排出を抑制するため、平成 29 年度に実施した省エネ診断に基づき、30 年度、「大仙市地球温暖化対策実行計画」を改定するとともに、補助制度を活用して、公共施設 7 施設に二酸化炭素排出削減効果の高い設備の導入を進めてまいります。

(安全・安心体制の充実)

消費者行政の推進については、年々増加している消費者トラブルを早期解決に導くため、専門相談員による相談窓口の機能強化と啓発事業の推進に努めてまいります。

また、消費者被害を未然に防止するため、消費者教育の推進やコミュニティ FM を活用した注意喚起などを実施してまいります。

防災対策については、平成 29 年度作成した「各地域版ハザードマップ」を活用し、各自主防災組織の特性に応じた「自主防災組織版ハザードマップ」の作成を支援するなど、自主防災組織の活動強化と防災意識の啓蒙を図ってまいります。

また、自主防災組織率は、平成 30 年 1 月末現在 90.7 パーセントとなっており、組織の立上げに係る支援を強化し、新規設立をさらに促進してまいります。

災害備蓄品については、「地域防災計画」に基づき、アルファ米や毛布などを充実するとともに、災害時、迅速に避難者へ提供できるよう

各地域への分散備蓄を図ってまいります。

防災教育については、市内の関係小・中学校が実施している東日本大震災の被災地との交流活動を支援し、その充実を図ってまいります。

また、学校が地域住民や関係機関と連携した避難所開設訓練をモデル校で実施する取組も継続してまいります。

(雪対策の強化)

雪対策については、「雪対策総合計画」に基づき、道路の除排雪を含む既存事業の強化拡充、除雪の担い手の確保育成のほか、自力除雪の困難な高齢者世帯などへの支援を行ってまいります。

また、除雪共助活動への支援として平成 29 年度から本格実施している「地域協働雪対策事業」のさらなる普及を図り、地域の共助による雪対策の推進を図ってまいります。

(環境衛生の整備)

一般廃棄物最終処分場の廃止については、昨年 9 月に着工した中仙地域の最終処分場の閉鎖整備工事に続き、平成 30 年度は、大曲地域の最終処分場の工事に着手いたします。残り 5 箇所最終処分場についても、早期の廃止に向けて作業を進めてまいります。

廃棄物処理の広域化については、昨年 4 月、大曲仙北広域市町村圏組合に広域化準備室を設置し、平成 31 年 4 月の広域化に向けて準備作業を進めております。29 年度中に広域化基本構想が策定されることとなっ

ており、策定された基本構想については、改めて議員各位へ説明する機会を設けさせていただきたいと考えております。なお、6月には、本市、仙北市及び美郷町による広域化に関する基本協定を締結する予定であります。

（道路の整備）

道路維持管理については、市民の皆様から好評を得ている舗装やパッチング等の直営作業について、新たに西仙北庁舎内に西部道路維持班を設置し、中央班や東部班と連携を図りながら、市内全域の舗装修繕のスピードアップを図ってまいります。

（上下水道の整備）

上水道事業については、平成29年度から31年度までの3か年の継続事業である内小友七頭^{なながしら}地区の配水管施設整備工事を実施し、水道未普及地域の解消を図ってまいります。

また、30年度の完成を目指しておりました大曲上水道^{うつのだい}宇津台浄水場更新事業については、現場発生残土の受入先の調整に時間を要したことなどにより、工期の延長が必要となったことから工事を1年延長し、31年度の完成を予定しております。

簡易水道事業については、神岡神宮寺地区の水源新設、協和淀川地区の水道施設等災害復旧、中仙入角^{いりすみ}地区の水源新設、及び協和南部地区の管路布設を実施いたします。

公共下水道については、大曲、神岡及び南外地域の管渠布設工事を実施するほか、強首浄化センターの長寿命化対策工事に着手いたします。

(住環境、公園、緑地の整備)

住宅環境の整備については、住宅の耐震化率の向上を図るため、木造住宅の耐震診断、耐震改修助成を実施してまいります。また、市民ニーズが高い住宅リフォーム支援事業についても実施してまいります。

市営住宅の長寿命化については、「公営住宅等長寿命化計画」に基づき、耐久性の向上と予防保全的維持改善を進めてまいります。

公園、緑地の整備については、専門業者による遊具施設保守点検において、経年劣化等により要修繕又は修繕不能の判定を受けた遊具の修繕及び解体撤去を計画的に進めてまいります。

(4) 豊かな心と創造力を育みます

次に、教育、生涯学習、芸術・文化などについてであります。

(学校教育の充実)

学習環境の整備については、次期学習指導要領改訂に伴い、平成32年度から小学校外国語活動の学習時間が大幅に増加することが決定していること等を踏まえ、英語教育アドバイザーの配置や、ALT等との積極的交流を目的とした「グローバルジュニアマイスター育成事業」をさらに推進し、小学校外国語活動及び英語指導の充実を図ってまいります。

ます。

また、学校生活支援員 61 人の配置や、特別支援教育アドバイザーの継続配置のほか、登下校の安全確保を目的に、自転車で通学する中学生のヘルメット購入補助を新たに実施することとしております。

学校施設の整備については、国が策定した「インフラ長寿命化基本計画」に基づき、30 年度から 2 か年で「学校施設長寿命化計画」を策定することとしております。施設の老朽化状況の把握や、長期の維持・更新コストの積算を行うとともに、学校施設整備方針を策定し、今後 40 年間の長期方針と 10 年間の具体的な整備計画を示すこととしております。

(生涯学習の推進)

公民館施設については、中仙公民館清水分館を平成 30 年度に改築することとしております。改築にあたっては、地域の意見を集約、反映させながら進めており、新分館は羽後清水郵便局隣接の市有地に建設し、平成 31 年 3 月中旬に完成予定であります。

また、西仙北中央公民館を 31 年度に現在地に改築する計画であり、30 年度は解体工事及び建築工事の実施設計を行うこととしております。

(芸術・文化の振興)

総合市民会館事業については、4 市民会館において優れた文化芸術を鑑賞する機会を市民へ提供してまいります。また、平成 29 年度新たに

開催した「大仙市音楽祭」は、さらに多くの市民に楽しんでいただけるよう、地元で活躍する吹奏楽団体や合唱団体から参加いただき、音楽祭のコンセプトである「まちづくり」、「ひとづくり」、「きずなづくり」にふさわしい、市民が参加し楽しむ音楽祭の開催に努めてまいります。

旧池田氏庭園については、昨年 11 月に洋館が国の重要文化財に指定されたこともあり、各方面から庭園と洋館の公開機会の拡充要望が寄せられております。また、かねてより進めていた味噌蔵の保存修復工事が 30 年度中に竣工予定となっており、これらの状況を踏まえ、30 年度から、雪解け後の庭園整備が終わる 5 月下旬から 11 月中旬までの期間、庭園の常時公開を行うこととしております。

28 年度から実施しております「角間川・川のまち歴史交流の杜整備事業」については、旧荒川家住宅の内蔵^{うちぐら}の保存修理、主屋^{おもや}の大規模改修に着手し、工事の進捗状況に応じて、できる限り現場見学会などの特別公開の機会を設けたいと考えております。

（地域間交流・国際交流の推進）

地域間交流については、友好交流都市協定を締結している神奈川県座間市、有縁交流提携^{うえん}を締結している宮崎県宮崎市との間で、相互交流による友好関係の強化と地域活性化を目指し、青少年や「大仙市さどわら会」等の市民団体による交流事業を実施してまいります。

また、これまで東日本大震災の復興支援などを通じてつながりを築いてきた岩手県宮古市について、今後は「復興支援」から「相互交流」に

移行し、幅広い分野での交流を図ってまいります。

国際交流については、韓国^{たんじん}唐津市との友好交流協定締結 10 周年記念事業として、記念式典や本市と唐津市の農商工団体等による経済交流会議などを、10 月に本市において開催いたします。

(5) 時代に合った地域を創ります

次に、地域社会の維持・活性化、市民との協働、行財政運営などについてであります。

(地域社会の維持・活性化)

地域の活性化に対する支援については、市民が地域の課題解決のため自主的に実施する活動を応援する「地域枠予算」を増額いたします。

また、「地域イベント応援事業」及び「ひとづくり・ものづくり応援事業」を地域枠予算内に創設し、まちづくりに対する地域の一連の活動を支援してまいります。

(移住・定住の促進)

移住・定住の促進については、平成 28 年度に策定した「移住・定住促進アクションプラン」に基づき、首都圏等から移住者を呼び込むための取組として、首都圏での相談会をはじめ、プロモーション動画やガイドブック、ブログを活用した情報発信、お試し移住体験などにより、本市の魅力発信に努めてまいります。また、住宅の取得、改修等に対す

る支援や、移住者同士の交流会の開催など、生活支援にも配慮し移住者数の増加につなげてまいります。

さらに、新規事業として「移住希望者に寄り添った就職支援」を実施してまいります。希望者の多くが抱えている仕事に関する悩みを解決するため「無料職業紹介事業所」を開設し、市が就職先を紹介できる体制の整備を進めるとともに、移住に関する全ての悩みの解決をサポートする「移住コーディネーター」を配置し、相談体制の充実を図ってまいります。

地域おこし協力隊の増員については、都市部に居住する若い人材を呼び込み新しい視点での地域活性化に取り組むため、昨年9月から募集を行い、4月から新たに3人の隊員を採用することとしております。

（市民との協働）

市民との協働によるまちづくりについては、各支所の地域活性化推進室を中心に、地域住民との協働で地域資源の掘り起こしと活用を目的とした「地域の魅力再発見事業」を実施しており、それぞれの地域が誇りと魅力を地域の内外に発信するため、地域独自の事業を進めております。

平成30年度は、さらに新たな取組を展開しながら、各地域の魅力を磨き上げていくこととしております。

（行財政運営の効率化）

市税等の納付場所については、現在、市役所本庁や支所、指定の金融

機関に限定されておりますが、平成31年4月からコンビニエンスストアでの収納サービスを開始することとし、平成30年度にシステムの改修を行うこととしております。

収納サービス導入後は、納期内納付であれば、全国のコンビニ店舗において24時間、365日、納付が可能となり、大幅な市民サービスの向上が図られるものと考えております。

（「明治150年」関連）

平成30年は、明治改元から150年に当たります。国では、「明治以降の歩みを次世代に遺す」、「明治の精神に学び、更に飛躍する国へ」を基本的な考え方とする「明治150年」関連施策を推進しております。

本市においても、戊辰戦争や地主制、地域の産業など、本市の近代化をテーマとするシンポジウムの開催や、現代に継承されている有形無形の文化的遺産を市民とともに探訪する事業などを計画しております。

5 むすびに

以上、市政運営に対する私の考え方を申し上げます。

本年は、「平成」となって30年の節目の年であります。昨年、国内での自然災害をはじめ、国外でも北朝鮮のミサイル発射など不穏な動きが数多くありました。新年度は、この元号に込められた願いのとおり、国の内外、天地とも平和がもたらされ、希望に満ちた輝かしい一年となることを願ってやみません。

「すべての地域がすみずみまで元気になるまちづくり」そして「市民の皆様が住み良さを実感し、将来に希望が持てるまちづくり」を基本理念に、決して諦めず、成果を意識しながらスピード感を持って、大仙市の発展に向けた「明日の大仙を拓く新たなチャレンジ」に、市職員一丸となって邁進してまいります。

市民の皆様並びに議員各位の一層のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。平成 30 年度の施政方針といたします。

配付資料

平成 30 年第 1 回大仙市議会定例会

平成 29 年第 4 回議会定例会以降における諸般の報告

平成 30 年 2 月 23 日

大 仙 市

目 次

【総務部】

- 1 雪下ろし技能講習会について..... 2
- 2 平成29年度秋田県・大仙市冬期防災訓練について..... 2
- 3 第4回大仙市いっせい防災行動訓練について..... 2
- 4 平成29年度「第1回除雪デー」について..... 2

【農林部】

- 5 水稻の直播栽培導入推進事業について..... 3
- 6 園芸メガ団地のトマト栽培について..... 3
- 7 周年いちご栽培について..... 3

【経済産業部】

- 8 平成30年3月高校卒業予定者の就職状況について..... 3
- 9 秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会について..... 3
- 10 仙北地域企業説明会について..... 4
- 11 韓国との青少年交流について..... 4
- 12 台湾トップセールスについて..... 4
- 13 市内の小正月行事等について..... 4

【建設部】

- 14 住宅リフォーム支援事業について..... 4

【上下水道部】

- 15 下水道事業について..... 5

【水道局】

- 16 上水道事業等について..... 5

【教育委員会教育指導部】

- 17 小・中学校の部活動について..... 6
- 18 大仙市立中学校生徒海外派遣事業について..... 6
- 19 「大仙ふるさと博士育成」事業について..... 6

【教育委員会生涯学習部】

- 20 地域学校協働活動について..... 6
- 21 第12回大仙市民書き初め大会について..... 7
- 22 第12回大仙市芸術文化賞表彰について..... 7
- 23 古四王神社文化財防火デーについて..... 7

【総務部】

1 雪下ろし技能講習会について（雪対策推進室）

市民が屋根の雪下ろしに関する正しい知識と危険意識を持って安全に作業し、不慮の事故を未然に防止することを目的に、昨年12月20日、大曲地域職業訓練センターと県仙北地域振興局を会場に開催しました。一般市民や関係団体から約120人が参加し、大仙警察署による雪下ろし事故の概要などの座学講習のほか、大曲消防署による安全な雪下ろし作業の実技講習が行われました。

2 平成29年度秋田県・大仙市冬期防災訓練について（総合防災課）

県と市が共催し、冬期の積雪寒冷下での地震災害を想定した訓練を1月23日に協和スキー場で開催しました。落雪や雪崩など冬期間に想定される災害に対応できるよう、自衛隊や警察、消防、消防団、地元自主防災会などから約500人が参加し、関係機関が連携した防災訓練を実施しました。

3 第4回大仙市いっせい防災行動訓練について（総合防災課）

災害時相互応援協定を結んでいる神奈川県座間市と連携して取り組んでいる地震を想定した「シェイクアウト訓練」を、1月23日午前11時に市内一斉に実施しました。秋田県・大仙市冬期防災訓練参加者のほか、市内の学校や企業、団体、個人など計29,572人が参加しました。参加目標の3万人はわずかに下回りましたが、多くの方の参加により、市民の防災意識の向上に繋がりました。

4 平成29年度「第1回除雪デー」について（雪対策推進室）

1月23日から急激に増えた積雪により、機械除雪が追いつかない場所や人手によるきめ細かな対応が必要な箇所の除排雪を行うため、2月16日に実施しました。

通学や買い物などの歩行者が多いJR大曲駅から大仙警察署前交差点までの大町通線で空き家や空き地前の排雪作業のほか、高齢者等世帯で緊急的な対応が必要な家屋について除排雪を行いました。

当日は、市職員73人に加え、大曲仙北広域市町村圏組合消防本部から10人の応援をいただいたほか、沿線住民の方々からも参加いただきました。

なお、各地域においても、市職員による見通しの悪い交差点や通学路などの一斉除雪を適宜行っています。

【農林部】

5 水稲の直播栽培導入推進事業について（農業振興課）

仙北ふれあい文化センターで2月14日、直播栽培取組農家や仙北地域認定農業者協議会会員等71人が参加し、農研機構東北農業研究センターの全面協力のもと実施した無コーティング種子直播栽培の実績検討会（報告会）を開催しました。無コーティング種子直播栽培の実証結果等について、活発な意見交換が行われました。

（実績：作付品種 めんこいな、単収 703 kg/10 a）

6 園芸メガ団地のトマト栽培について（農業振興課）

平成29年度のトマトの出荷量は、作型の変更や大雨などの天候不順、繁忙期の労働力不足などにより、目標の約6割の180トン、販売額は3,900万円と伺っています。

今年度の実績を踏まえ、営農主体の法人、JA、市、県合同で目標を下回った原因を解明し、改善に向け作型の変更、作業体系の見直し等の検討や、大規模園芸生産を学ぶための先進地研修実施など課題の解決に向けた取組を続けています。

7 周年いちご栽培について（農業振興課）

いちご栽培については、今年度新たに2戸の農家が栽培を始め、大曲と太田地域の3戸が49.8aのハウスで生産しています。2月16日現在の収穫量は3,954kgとなっており、今シーズンは6月まで収穫を予定しています。今後も、県、JAと連携して巡回を行いながら、栽培技術や作業体制の向上に向け支援していきます。

【経済産業部】

8 平成30年3月高校卒業予定者の就職状況について（企業商工課）

ハローワーク大曲の集計によると、1月末現在で、求人数は548人、就職希望者は363人、このうち内定者は358人で就職内定率98.6%と、県平均96.4%と比較し2.2ポイント上回る状況となっています。

9 秋田県・県内市町村と首都圏企業との懇談会について（企業商工課）

1月17日、東京の「ホテル椿山荘東京」で行われ、県内に進出済みの企業関係者や自治体の首長など361人が参加し、本市からは佐藤副市長と担当職員が参加しました。懇談会では、知事による企業立地施策の紹介や、千葉工業大学常務理事の宮川博光氏による学生の就職動向について講演が

行われたほか、各企業へ本市の企業支援策の紹介や各企業の現状などについて情報交換を行いました。

10 仙北地域企業説明会について（企業商工課）

早い時期から地域の企業を知り就職に対する理解を深めることと、早期離職者の減少及び若者の地元定着を図るため、今年で2回目となる高校2年生を対象とした「仙北地域企業説明会」を2月15日、フォーシーズンで開催し、43の事業所と高校生434人が参加しました。

11 韓国との青少年交流について（観光交流課）

大仙市国際交流協会（事務局：観光交流課）は、1月5日から11日までの7日間、ソウルにある青少年交流団体「韓国LABO」の訪問団（青少年5人、引率1人）を受け入れ、レクリエーションや日本文化体験、大曲農業高校での学校交流等のメニューを通して交流を実施しました。

12 台湾トップセールスについて（観光交流課）

大仙市、仙北市及び美郷町の3市町は、平成28年度から「みずほの里ロード」を活用したインバウンド誘客に繋がるサイクリングコースを整備しており、事業のターゲットとしている台湾を1月17日から21日まで訪問し、台湾サイクリング協会や台湾観光協会等に対して首長によるトップセールスを行ってきました。

13 市内の小正月行事等について（観光交流課）

大仙の冬を彩る小正月行事や冬まつりが市内各地域で次のとおり開催されました。

1月14日（日）八坂神社ぼんでん（中仙）

2月3日（土）払田柵の冬まつり（仙北）

〃 太田の火まつり（太田）

2月10日（土）国指定重要無形民俗文化財「刈和野の大綱引き」（西仙北）

2月11日（日）川を渡るぼんでん（大曲）

2月14日（水）押切の火振りかまくら（中仙）

2月15日（木）鳥子舞・大曲の綱引き（大曲）

【建設部】

14 住宅リフォーム支援事業について（建築住宅課）

今年度は、3月20日までに実績報告書を提出いただけるものについては、

全て申請を受け付けることとしており、1月末時点で申請483件、補助金額7,009万円、対象工事費8億9,694万円となっています。

また、災害復旧分のリフォーム支援事業については、3月30日までに実績報告書を提出いただけるものについて、全て申請を受け付けることとしており、1月末時点で申請183件、補助金額3,344万円、対象工事費2億4,094万円となっています。

【上下水道部】

15 下水道事業について（下水道課）

大曲、神岡地域における今年度の管渠工事が全て完了しています。昨年11月に発注した南外地域の管渠工事及び中継ポンプ電気機械設備工事は、3月中旬までに完了予定です。

刈和野浄化センター及び協和中央浄化センターの長寿命化整備事業は、3月の完了を目指し工事を進めています。

【水道局】

16 上水道事業等について（上水道課）

・上水道事業について

四ツ屋字上前村地内の配水管布設工事は昨年12月21日に、大曲須和町地内の配水管改良工事は1月23日に、それぞれ完成しています。

内小友七頭地区配水管布設工事の今年度施工分は、3月中旬に完了予定です。

・簡易水道事業について

神岡地域の神宮寺浄水場及び北檜岡浄・排水場の次亜注入ポンプ更新工事は、1月25日に契約を終え、3月下旬の完了予定です。

西仙北地域刈和野地区の災害復旧工事実施設計業務は、昨年12月21日に契約を終え、3月下旬の完了予定です。

中仙地域入角地区の水源調査業務は1月11日に、豊岡地区の浄水施設築造工事は昨年12月21日に契約を終え、それぞれ3月下旬の完了予定です。

協和地域南部地区の災害復旧工事は昨年12月7日に、中央地区及び淀川地区の災害復旧工事は1月11日に契約を終え、それぞれ3月下旬の完了予定です。

【教育委員会教育指導部】

17 小・中学校の部活動について（教育指導課）

昨年12月16日に「さいたまスーパーアリーナ」で開催された「第45回マーチングバンド全国大会」において、大曲中学校吹奏楽部が中学校・大編成の部で11年連続の金賞を、太田中学校吹奏楽部が12年ぶりに出場した中学校・小編成の部で銀賞を、HMB花館小学校マーチングバンドが7年連続で出場した小学校・小編成の部で銀賞を受賞しました。

南外中学校吹奏楽部は、1月20日に開催された「全日本アンサンブルコンテスト第40回秋田県大会」において、サクソフォン四重奏が東北大会に推薦され、2月11日、福島県文化センターでの東北大会で演奏を披露し、銅賞を受賞しました。

18 大仙市立中学校生徒海外派遣事業について（教育指導課）

1月3日から11日までの9日間の日程で、オーストラリアに市内の中学校2年生20人を派遣し、全員無事に帰国しました。

派遣された生徒は、ファームステイ先のファミリーや現地の子どもたちとの交流の様子に加え、事前に「食文化」「自然環境」「水資源」などの自分で設定した研究テーマの下、日本とオーストラリアを比較して気付いたこと・考えたことなどをレポートにまとめ、2月15日に仙北ふれあい文化センターで開催した報告会で発表しました。

19 「大仙ふるさと博士育成」事業について（教育指導課）

教育委員会が企画した「冬の特別企画 企業見学DAY」が、1月9日から12日までの4日間、市内の4企業で行われ、児童生徒と保護者など延べ158人が参加しました。

事業開始から1年7か月が経過し、「大仙ふるさと博士」の認定を受けた児童生徒数は、2月1日現在、名誉博士1人、上級7人、中級329人、初級2,174人の計2,511人となっています。

この度、本事業を含むキャリア教育の取組が認められ、大仙市教育委員会が「第11回キャリア教育優良教育委員会、学校及びPTA団体等文部科学大臣表彰」を受けました。

【教育委員会生涯学習部】

20 地域学校協働活動について（生涯学習課）

幅広い地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、「学校を核とした地域づくり」を目指して、地域と学校

が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動が「地域学校協働活動」です。

この度、中仙小学校が、表装教室やジャンボウさぎの飼育、桜を守る活動などの地域と学校が一体となった取組が評価され、今年度の「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰を受けました。

21 第12回大仙市民書き初め大会について（生涯学習課）

1月5日、大曲体育館において開催し、幼児から高校生まで97人が参加しました。会場では、大曲高校書道部による書道パフォーマンスや初心者を対象とした書道体験も行われました。

作品は、1月10日から16日まで大曲交流センターに展示され、多くの市民に鑑賞いただきました。

22 第12回大仙市芸術文化賞表彰について（生涯学習課）

本市における芸術文化活動において、特に顕著な功績や実績をあげた団体、個人を表彰するもので、市芸術文化協会が行っている顕彰事業です。

今年度は、6個人と1団体が選ばれ、2月9日にグランドパレス川端を会場に表彰式と受賞祝賀会が行われました。

23 古四王神社文化財防火デーについて（文化財保護課）

国の文化財防火デーにあわせ、1月26日、国の重要文化財に指定されている大曲地域の古四王神社で防火訓練が行われ、地域住民や東大曲小学校児童など約130人が参加しました。同小児童による放水訓練のほか、古四王堂火消しもちまつり実行委員会による雪祭りも行われました。